

有限会社向田鋳金工作所

向田 雄治さん

Koda Yuji

Profile

七尾市出身。鵬学園高等学校卒業後、住宅関連会社に就職。2013（平成 25）年に父の茂雄さんが代表を務める向田鋳金工作所に入社。七尾に拠点を置き、県内全域で住宅の新築・リフォーム工事を担当。趣味は釣り。「志賀町富来から船に乗り、アラやブリを狙うこともありますよ」（向田さん）



有限会社向田鋳金工作所（七尾市）

1935（昭和 10）年創業、1963（昭和 38）年に法人化。主に住宅関係の建築板金を手がける。向田茂雄社長で 3 代目となり、「お客様の満足度第一」をモットーに地域密着の仕事ぶりで高い信頼と実績を築いている。【所在地】七尾市府中町 60 番地の 2 【資本金】300 万円 【代表】向田茂雄



仕事の夢♡

文化財修復に挑戦を

現在、金沢城公園の三十間長屋の改修が計画されています。建築板金職人としてさらなる成長を目指すためにも、携わりたいですね。



建築板金職人までの道のり

◎高校卒業後、建築会社に勤務



◎社会経験を積み、建築板金の世界へ

「入社後、建設共同高等職業訓練校にも通いました。同じ教室で机を並べた同期の職人とのネットワークもでき、通ってよかったですね」（向田さん）。

職人の こだわり

職人仕事には体力も必要。昼食は彼女お手製の弁当でパワーを補給しています！



いろいろな機械もありますが、職人には手仕事も大切です。技能士の資格試験には実技もありますよ



「きれいになった」。施主さんからの感謝の言葉が仕事と向き合う活力に

丁寧な作業を信条に 1 軒 1 軒に対応

「とてもきれいになった。ありがとう」。向田鋳金工作所（七尾市）の向田雄治さんにとって、この言葉が仕事と向き合う上で一番の活力になっています。

同社では住宅の屋根や外壁、雨どいなどのリフォームをメインとしており、一般の方々との接点も少なくありません。「少しでも傷が残ると、そこから錆びて雨漏りの原因になります。＼とにかく丁寧な仕上げ」は、社長からも口酸っぱく言われていますし、何を置いても心がけています」と向田さん。だからこそ、お客様からの感謝の言葉を聞くと、自然と顔がほころぶのだとか。「建築板金の仕事は外での作業がほとんど。夏は暑く、冬は寒いなど、厳しいところも確かにありますが、施主さんの喜ぶ顔を見ると、そんな苦労も一気に報われます」と笑います。

働き始めて分かった 職人の仕事ぶりに驚き

父が建築板金職人の向田さんにとって、この仕事は最も身近な職業であり、中学生の頃から手伝いに汗を流すこともあったそうです。そんな向田さんでも就職してすぐに職人仕事に慣れたわけではありません。やはり、サポート役と実際に働くのは全くの別もの。精も根も尽き果てた状態で、何とか家路につく日が続いたそうです。「父はそんな 1 日を何十年も繰り返してきました。同じ職業に就いたことで、その大変さが身をもって分かりました」と振り返ります。

加えて、失敗や小さなケガを何回も経験したと言います。「人間ですから、どんなベテランでも失敗することはあります。むしろ、それを今後のための糧にできるかどうかが大切です」。建築板金職人の大先輩でもある向田茂雄社長のアドバイスを受け

ながら、向田さんは職人として一步步成長を重ねています。

重要文化財・三十間長屋の 改修に力を発揮したい

取材に訪れる 1 週間前、向田さんのもとにはうれしい知らせが届きました。建築板金職人にとって目標の一つとなる 1 級建築板金技能士への合格を果たしたのです。雨どいの施工作業に用いる八千折りや、1 枚の鉄板をたたいて縁を形づくっていくかり出しなど、休日にまで工場に詰めて腕を磨いた成果が発揮されました。

これからを担う建築板金職人として活躍する向田さんが、いま目標としているのが、金沢城公園内の重要文化財・三十間長屋の改修作業に参加することです。「屋根に用いる鉛は、普段の住宅で使っているトタンよりも軟らかく、傷つきやすい素材です。扱いが難しいのですが、職人としてレベルアップする

ためにも改修作業にぜひ携わりたいですね」。向田さんはこう話し、文化財工事に関わる講習会などに積極的に参加。100 年先も 200 年先も残る地域の宝を形づくる仕事に腕まくりしています。

